

平成 24 年 10 月 12 日

がん検診啓発ラジオ放送企画報告書

県民へのがん検診啓発活動として、ROK ラジオ沖縄と沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会がタイアップし、以下の通り実施したので報告する。

➤ がん征圧月間特別企画：ラジオコマーシャルについて

9 月はがん征圧月間であることから、ラジオ沖縄では、9 月 11 日～9 月 30 日の 20 日間、がん検診の早期受診を啓発するラジオコマーシャルを放送した。

➤ がん検診啓発特別ラジオ番組について

制 作：ROK ラジオ沖縄

協 賛：なし（ROK ラジオ沖縄様独自の普及啓発事業として）

番組名：「チャットステーション L」

テーマ：「受けよう！ウチナ～！がん検診」

放送日：平成 24 年 9 月 28 日（金）午後 2 時～4 時（120 分）

出演者：パーソナリティー 玉城 美香

ゲスト：渡嘉敷 みどり（那覇市立病院 産婦人科部長）

石郷岡 美穂（琉球大学医学部附属病院 医療福祉支援センターMSW）

聴取者メール応募数：187 通

内 容：

聴取者から寄せられる「がん検診」についてのエピソードを基に、県内の「がん」の検診率や検診の重要性等について、専門のゲストを招き解説を行なった。

がん検診の検査方法と子宮頸がんワクチンについて

（那覇市立病院 産婦人科 部長 渡嘉敷みどり先生）

がんは検診などで、早期に発見・早期治療で完治する可能性が高くなる・すると体へのダメージが少なくなることから、改めて、何よりもまだがんが見つからない内からの「がん検診」の必要性、早期発見、早期治療の大切さが伝えられた。子宮頸がんは、2 年に 1 回、5 年ごとの検診クーポン配布や子宮頸がんワクチンの接種により、各市町村での検診情報・公費補助などについても興味を持って情報収集し、できるだけ受診するよう呼びかけられた。他にも、聴取者からは、子宮がんや、気になる婦人科の症状についてなど、数多くの質問が寄せられた。

がん相談支援センターと医療ソーシャルワーカーの役割

(琉球大学医学部附属病院 医療福祉支援センターMSW 石郷岡美穂氏)

医療ソーシャルワーカーである石郷岡氏からは、医療ソーシャルワーカーの役割について、実際にがんに罹った方、また患者さんのご家族の方へのケアについて説明があった。

拠点病院や支援病院など、各病院にある相談支援室やそこにいる MSW をどんどん利用してほしいと呼びかけられた。また、様々な情報を得るために、患者必携「おきなわがんサポートハンドブック」第2版が、各病院・薬局・役場・図書館・学校などに配布してあるので、上手に活用してほしいとコメントされた。

最後に、渡嘉敷みどり先生（那覇市立病院 産婦人科部長）より、「検診」は症状が出てからでは遅い。日頃から、自分の健康に関心を持ち、自分自身のためだけではなく、ご家族や身近な人のためにも検診を受けて欲しいと、聴取者へ呼びかけられた。

石郷岡美穂氏（琉球大学医学部附属病院 医療福祉支援センターMSW）より、患者さんやご家族もお一人で悩まず、「MSW は、いつでも患者さんの近くにいる」と、たくさんの方に各病院にある相談室や MSW を利用してほしいと呼びかけられた。

聴取者からは、「恥ずかしいからと命を縮めてしまうより、ひと時の恥かしさを我慢して命を伸ばす方が自分自身にも家族のためにもなる」「子供のためにも、家族のためにも定期的に検診をして家族を守らなければいけない。がん検診について考えてみようと思う」等、番組へ対するメッセージが、187通寄せられた。

